

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 8月 27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1190600013
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	庄和ケアセンターそよ風
所在地	〒344-0117 埼玉県春日部市金崎675-2 (電話) 048-718-3730

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年8月27日

## 【情報提供票より】(平成20年7月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11人, 非常勤 7人, 常勤換算 14 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,500円				

### (4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	62 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛和病院、かみむら歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、介護、福祉、医療を総合的に手がける大手会社系列のグループホームである。ホームの名前の由来ともなっている旧庄和町は、江戸川沿いに在り、特別養護老人ホームがあったこともあり、もともと住民の高齢者福祉への関心は高い。個々に応じた自立支援を受け、互いに支えあいながら日常生活を送る中で、多くの利用者は安らぎを得、自信を取り戻して暮らしている。事業所は、「共に生きる」を理念として、隣接団地との交流、地元の行事への参加、高校生ボランティアの受入等、地域に密着した活動を広げている。認知症になっても普通に暮らしていけるよう、地元住民の理解を得る地道な努力がなされている開設2年余のホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>災害時の備蓄は会社の埼玉支社にあるが、ホームとしても米の買い置きとともに、飲料水や缶詰等を購入し、保存にゆとりをもたせた。また、市職員が運営推進会議に出席したり、市防災訓練には事業所が参加するなど、市との連携が進展している。玄関の施錠については、不穩になる利用者もあり、今の支援と職員体制では現状を続けざるをえず、持ち越されている。なお、家族への報告は、現在のホーム便りに手を加え、さらに意思の疎通を図りたい意向であり、前回の評価における課題の改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、一部職員が目を通したものの、結果的には管理者に一存され、職員全員による作成には至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に地域代表として近所からの2名、新たに隣接団地会長と当事業所のオーナーが加わったことで、地域につなげるパイプが強力になった。さらに市高齢介護課職員は必ず出席し、適切なアドバイスをくれている。食の安全性の問題がとりざたされたのを契機に、契約農家からお米を購入し、食事サービス試食会を開いたり、今までの会議ではホームの適正料金の見直しの問題が討議され、サービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、第1日曜日を相談日と決めている。料金の適正化の問題がおきた時は、家族会や運営推進会議でも取り上げられたが、直接来訪した家族から、多くの相談、質問、意見が寄せられた。また、家族は、利用者へ直接波及する問題として、どんな職員に支援されているのかを知りたい思いがある。今後、事業所としては、異動報告や新任職員の紹介をホーム便りに載せるなど、何らかの形で伝えたい意向である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接の団地とお互いに行事企画の交換をしたり、団地の掲示板を利用させてもらうなど、普段から交流を図っている。また、高校生との交流もなされ、学校の文化祭に利用者の「塗り絵」展示コーナーが設けられた。地元のマラソン大会に利用者の家族が参加した際は皆で応援するとともに、空き地でバザーを開催して、売上金を花火大会のアイスや西瓜代に充てて喜ばれるなど、地域との連携に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念「共に生きる」は個々に応じた自立支援とともに社会的孤立感の解消をうたっており、事業所の地域密着型サービスの理念としても同様に掲げている。		隣接団地との交流、地元の行事への参加、高校生ボランティアの受入等、地域に密着した活動を広げて、理念の実践に努めている。認知症になっても、地元住民の理解を得て普通に暮らしていけるよう地道な努力がすでになされており、今後は、法人だけでなく事業所独自の理念づくりが期待される。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビングの壁に大きく掲示している。管理者と職員は、ミニカンファレンスやカンファレンスを通じて、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを継続するために適した支援とは何か話し合い、意見を統一して、ケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の団地との交流が深まり、双方の行事企画の交換や、団地の掲示板を利用させてもらえるようになった。また、高校生との交流で、学校の文化祭に利用者の「塗り絵」展示コーナーが設けられた。地元のマラソン大会には、利用者の家族が参加してみんなで応援したり、同時に空き地でバザーを開催して売上金を花火大会のアイスや西瓜代に充てて喜ばれるなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、全職員が目を通し、評価を活かして改善に向けた取り組みを行っている。今回の自己評価票については、一部職員が目を通したものの、設問の内容に対し限られた時間内に全て書き上げることは困難を要し、結果的には管理者に一存されている。		評価の一連の作業に職員全員で取り組み、評価を最大限に活かしていくことが望まれる。グループホームが求められていることを職員全員が把握して、意識を統一するためにも、全職員に丁寧に解説し、話し合いをもつことを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表として新たに隣接団地会長と当施設のオーナーが運営推進会議に加わり、また、市高齢介護課職員は必ず会議に出席し、適切なアドバイスをしてくれる。食の安全性がとりざたされたのを契機に食事サービス試食会を開いたり、ホームの適正料金の見直しの問題が討議されるなど、サービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が年1回訪れる他、毎月介護相談員が派遣され、年1～2回意見交換会を行いながら連携に努めている。また、市が月初めに流す施設の空き室情報の報告や、事故発生時には終結に至るまでの書式報告をするとともに、市の防災訓練では避難要請伝達をする実地訓練を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理を報告するとともに、介護日誌も提示している。来られない家族には、月1回郵送連絡を行っている他、変化時にはそのつど電話で連絡している。毎月発行している「そよ風通信」には、主に行事を行った際の利用者の写真が載せてある。		交代勤務のため、家族が出会う職員がいつも同じとは限らない。家族の安心のためにも「そよ風通信」を活用して、職員の異動報告や新職員の紹介を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、第1日曜日を相談日と決め、任意で行っており、多くて2～3人程度が来訪している。料金改正の時には相談者が多く、3回に分けて行った。家族会や運営推進会議でも意見を述べることもできるとともに、重要事項説明書にも明記され、入居契約時に説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来の常勤職員の交代回数は2回だが、パート職員の異動が多い。常勤もシフト制で働いているため顔馴染みの関係を築くのは大変だが、できるだけ異動時には馴染みの職員が対応するようにしている。現在職員数は増えており、管理者が9月からフリーの体制になるため、ゆとりができる分全体をみる事ができる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用後、1か月以内に研修が行われる。会社の研修年次計画があり、立場に応じて職員が参加しているが、パート職員に対する継続的な研修は手薄になっている。		パート職員に対しても内部研修を行い、職員に学ぶ喜びを与え、介護技術向上につなげていくことを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	立場に応じて、社会福祉協議会や技術支援センターの介護支援専門員向け研修会等の外部研修会に参加している。研修や訪問を通して同業者間でのネットワークができており、交流もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当たっては、行事に招待したり試して泊まりをしてみるなど工夫しながら雰囲気に馴れてもらっている。家族も地元に住んでいる方が多いため、入居してもいつでも家族に会える安心感からか、利用者も納得している。どうしても帰宅願望の強い利用者については、緊急性を見極めて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人対人の関係を大切にして尊敬の心を忘れないようにし、利用者から学ぶこともある。また、利用者は職員の一挙一動をよく観察しており、ねぎらいの言葉をかけてくれることもある。男性職員が苦手とする針仕事を女性利用者が進んで手伝い、荷物運び等の力仕事を男性職員が行うなど互いに支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人及び家族から情報をもらい、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、元の性格や家庭で行っていたコミュニケーションのとり方を聞いて参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向、希望を聴き、一人ひとりの生活史や生活習慣等をもとに、本人らしい暮らしを支えるために必要な支援を職員間で検討し、介護計画としている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月、6か月の期間を設けて見直すとともに、変化のあった場合はそのつど見直しを行うようにしている。変化のない利用者については、普段の生活の中でも自然にリハビリにつながっていくような支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎を受けて透析に通い、医療と連携しながらホームで暮らす利用者もいる。職員は家族に代わって、病院への通院介助をしたり、要望に応じて入院先への用足しも行うなど、状況にあわせた支援をしている。また、利用者の帰宅願望が強い時には、緊急性を判断した上で自宅まで送ることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院及び他医療機関との連携を図り、定期受診に職員が付き添っている。利用者の症状が安定していない時や要所では家族対応にしている。定期的な往診はなく、歯科医が週1回訪れ、入れ歯や口腔の管理をしてくれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に施設側で対応できること、できないことについて話し、方向性を共有するようにしている。食事を口から摂取できない時は提携病院に点滴に通い、改善されなければ医師と家族との話し合いで、経管栄養のため胃瘻を考慮した入院となる。そうなった場合、救急搬送を頼んでも半日かかる現状があり、住み替えに向けての準備に移行することになる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう、職員は尊重の気持ちを忘れずに対応している。希望者には個室のドアの鍵を持たせており、洗濯物を他人に触れられることを嫌う方には、自分で部屋に干してもらっている。また、記録は事務所の鍵のかかる書棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを保つように心掛けており、生活のメリハリを大切にしながら、一人ひとりにあった支援をさりげなく行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時間節約のため利用者の食事の分だけを職員が調理している。職員は食事の時も利用者の介助等に目を配る必要があるため、一緒に食事を摂らず、後から交代で休憩に入り、持参の弁当を食べている。		職員の勤務体制等を検討し、利用者と職員が語り合いながら同じ料理を味わい、食事が一日の楽しみな時間になるような工夫を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	失禁時や草取り後の臨時入浴は別として、毎日16～18時を予定して入浴支援を行っており、希望しない方にも少なくとも2日に1回は入ってもらっている。浴室は広く、湯船は二つある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の力を引き出して、商店から届いた食材の分類や収納を手伝ってもらったり、日常生活の中で役割をもち生活に張り合いが出るように工夫しながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等の外出時には、利用者一人に対して職員一人が付き、希望に沿った支援に努めている。また、ホーム内で自然に出来上がったグループ同士で外出に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と風呂場には鍵をかけている。利用者の中には不穩になる方もおり、3度の食事作りや通院介助、散歩、買物等で手がとられれば、玄関に鍵をかけざるを得ない状況にある。1階と2階は自由に行き来することができ、職員は利用者を見守りながら、外に出たい様子を察した際は一緒に付いていくように配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回行っている。当日の誘導の記録が残され、訓練後の反省もなされている。シフト外職員も通報訓練、見学を行っており、備蓄もされている。なお、消防署からは火災時、2Fの利用者についてはベランダで待つように指示されている。また、職員の喫煙所が利用者の出入りする場所と一緒にしているので、防火上懸念がある。		有時には、近隣住民や地区消防隊の団員にも協力してもらえよう、連絡先などを具体化しておくことが期待される。また、喫煙所については、利用者の出入りが無い場所に設置することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量についてはバイタルサイン記録表に、水分摂取については排泄の記録と一緒につけている。会社の栄養士によりカロリー計算された献立を一部替えて作っており、糖尿病の方には食事を、透析の方には水分量を医師の指示に基づいて制限している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングには、安定感のある食卓セットを点在させ、脇にソファや畳のコーナーも設置して、ゆったりと自由に過ごせるように工夫している。季節感を採り入れた装飾や手作りの小物が、室内を温かく家庭的な雰囲気になっている。トイレや浴室も広く、機能低下への対応が考慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分に合ったベッドを据え、大切な人の写真や使い慣れた日用品、家族からのプレゼント等を並べて、その人らしい居心地のよい居室となっている。中には、今までの和の生活習慣から、簡易たたみを置いたり、こたつを持ち込むなどして落ち着ける場所としている居室もある。		